

## 令和3年9月第3回定例会一般質問事項（9／13・14）

### 1 辻 人志 議員（政友会） 【一問一答】

- (1) 学校における新型コロナウイルス感染症対策について
- ・新学期以降、新たな感染症対策を講じているか。
  - ・子どもたちの不安や精神面のケア、陽性者への差別意識の排除等、子どもたちを守る取り組みについて尋ねる。
  - ・小中学校における今年度の修学旅行や体育祭、課外活動、合宿通学等の学校行事の状況は。
  - ・本市における教育実習の受け入れ状況、今後の受け入れについての考え方を問う。
  - ・今後の感染状況によっては一斉休校や分散登校、オンライン授業の実施が必要となると考えるが、それらを想定した検討を行っているか。
- (2) 平時におけるICT教育について
- ・児童生徒への端末配布、校内のネットワーク整備および家庭におけるインターネット環境整備の現状は。
  - ・児童生徒本人の意欲や能力、保護者の理解によって端末を使いこなせる子とそうでない子との間で格差が生じることが考えられるが対応策は。
  - ・平時における授業はあくまでも対面式の授業が基本と考えるが、通常時の授業においてタブレット端末を使用する授業の時間数とその学習内容は。
  - ・オンライン教育は不登校等の理由で長期欠席している児童生徒の指導に有効であるといわれているが、本市ではどのような取り組みを考えているか。
  - ・教員に対するサポート体制は現状どうなっているか。
- (3) ICT教育におけるデジタルデトックスについて
- ・本市の児童生徒が、一日のうちでスマホやタブレットなどのデジタルデバイスを使用している時間を把握しているか。
  - ・デジタルデバイスが育児や教育に重要な役割を果たしている一方で、それらに頼らない、のめり込まないことも大事であるという観点から、ICT教育においてデジタルデトックスを勧めることも必要と考えるが見解は。
  - ・小中学校において読書の大切さをどのように指導しているか。また具体的な取り組みについて尋ねる。
  - ・コロナ禍における読書について、どのような作品を児童生徒に勧めたいか。教育長一押しの一冊があればご教示願いたい。

### 2 伊藤 聖一 議員（志政会） 【一括】

- (1) 公共施設個別施設計画について
- ・市ではこの公共施設個別施設計画は、政策の意思決定にあたりどのように考慮されるものなのか。
  - ・令和2年策定の個別施設計画で丸岡観光情報センターについては、丸岡城周辺整備計画に基づき財政の裏付けをもって維持する優先的維持の施設であり、実施時期は令和8年以降となっている。先の6月定例会では個別施設計画変更の説明もなく、

城周辺整備計画の策定もされていない中で丸岡観光情報センター設計予算が計上された。改めて、丸岡観光情報センターが前倒しになった理由や議会へ個別施設計画変更の説明を行わなかった理由について伺う。

- ・丸岡城周辺整備については、まだ十分な機能を有する丸岡観光情報センター建替えより、地域住民や観光で訪れる方の安全安心を担保すべきではないか。周辺地域の都市排水機能の強化やすでに計画の進められているお天守の耐震化を優先すべきと考えるが。

### 3 戸板 進 議員（志政会） 【一問一答】

#### (1) 土砂災害対策について市の取組

- ・市内で、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域は、地区別で何カ所指定されているのか。
- ・指定されている地区では、この市洪水・土砂災害ハザードマップで確認するだけなのか、個別に該当地区に警戒するように指導しているのか。
- ・土砂災害特別警戒区域では、地盤の変化などセンサーを設置し、常に監視しているのか。
- ・公共工事で発生した建設残土は、発注自治体が処分先を確保するとされているが、坂井市の場合はどうか。また、民間工事の残土処分についてどのような指導をしているのか。

#### (2) 坂井市人口ビジョンの今後の方向性について

- ・令和3年6月に県が公表した令和2年国勢調査速報値を受け、市総合戦略をどのように分析するのか。
- ・市の移住ガイドではDMOが窓口となっているが、市が窓口となって、率先して事業を展開する必要があると考えるが、所見を伺う。
- ・市の空き家対策として、空き家情報バンクがあるが、空き家を出さない対策はあるのか。

### 4 山田 秀樹 議員（志政会） 【一問一答】

#### (1) 公共施設の利用予約システム導入について

- ・今年導入された市内の体育施設予約システム「さかスポナビ」の内容および評判は。
- ・コミュニティセンターへ施設予約システムを導入し、いつでもどこでもパソコンやスマートフォンを使って利用者登録、空き状況確認、予約、料金決済までオンラインで一貫して完結できる仕組みをつくってはどうか。
- ・利用の際に必要な利用報告書や利用者名簿などであるが、登録情報や予約情報を活用して毎回提出を不要とし手続きの簡素化を図れないか。
- ・マイナンバーカードのAPIを利用して、更に簡単に予約ができるようにしてはどうか。
- ・6月の常任委員会において、コミュニティセンター窓口でのキャッシュレス決済導入を前向きに検討するとの答弁であった。実現した場合、料金納入先は統一されるのか。統一されることで近所のセンターや支所から、遠方のセンターの予約を可能

にできないか。

- ・その他、利用予約システム導入が望ましい施設は。

(2) 新型コロナウイルス感染症の後遺症について

- ・後遺症の問い合わせ状況は。またその対応は。
- ・差別などをおそれ患者の声は顕在化しにくい。市は退院した患者への啓発活動を行っていくのか。
- ・コロナ後遺症に関する知見の収集、専用の検査や検査キットの準備など、コロナ後遺症専門外来が必要ではないか。
- ・若年層の感染も増加している。医学的な部分をはじめ、日常を取り戻すための社会的、経済的なアドバイスを含めた市独自の専門相談窓口が必要ではないか。

**5 川畑 孝治 議員（政友会） 【一問一答】**

(1) 不法投棄について

- ・市内における不法投棄の現状は。
- ・産業廃棄物は県の管轄である。県との連携は。
- ・不法投棄防止のための対策は。

(2) 住宅用火災警報器の維持管理について

- ・住宅用火災警報器本体の寿命はおおむね10年であるが、対策は。
- ・古くなると電子部品の寿命や故障、電池切れなどで火災を感知しなくなる恐れがあるが、対策は。
- ・住宅用火災警報器の維持管理に対する市民への広報は。
- ・住宅用火災警報器の交換に対する支援はできないか。

(3) 障がい者雇用について

- ・市の障がい者雇用率は守られているのか。
- ・本年度、来年度の障がい者雇用の状況は。

**6 近藤 哲行 議員（政立会） 【一括】**

(1) 坂井市をポイ捨てなどない美しいまちづくりの条例案

- ・当市においてポイ捨て、犬、猫などのフンの放置などの条例、罰則はないのか。もしないとしたら、作る考えはないか。

(2) 今ある公園をさらに有効活用する

- ・子どもからお年寄りまで幅広く利用してもらうための提案だが、最近の公園は他の市町でもつくられているが、大型犬、小型犬を分けた犬の遊び場をつくってはどうか。
- ・オリンピックで若者がメダルを獲得した。当市でものびのびと楽しめるスケボー場、ボルダリング場を設置してはどうか。

**7 後藤 寿和 議員（志政会） 【一問一答】**

(1) コロナ濃厚接触者の相談

- ・濃厚接触者が2週間自宅待機している間の疑問や相談事、また緊急性のある事案に対しては、専門の知識を持っている保健師の職員の協力で、相談の電話窓口やA Iを活用してのヘルプセンターができないのか。

(2) ストリートスポーツのまち坂井市に向けて

- ・平成30年に一般質問した時と時代も変わり、スケートボードに対する見方も変化してきた中、東京オリンピック2020にてスケートボード競技において、10代の選手によるメダルラッシュについてどのように感じたか。
- ・三国運動公園の公園部分や、雑木林の場所を整備する計画はあるのか。
- ・スケートボードパークを含むストリートスポーツが自由にできる施設整備をしてはどうか。

## 8 東野 栄治 議員（政和会） 【一括】

(1) 地域公共交通網形成計画について

- ・本市の地域公共交通の現状と課題は何か。
- ・〈交通拠点を中心とした公共交通ネットワーク〉  
主要駅、バスターミナルを核とした市内外のスムーズな移動を実現するための各公共交通機関の役割分担とコミュニティバスのルート再編、円滑な接続をどう考えるか。
- ・〈地域の実情に応じた生活交通サービス〉  
利用者ニーズに応じた運行内容の見直しをどう考えるか。
- ・次世代型地域交通サービス（オンデマンド交通）のモデル地区における現状と課題、今後の方向性をどう考えるか。
- ・〈利便性の高い交通結節点の形成〉  
駅舎の改築の今後の計画とその考えは。
- ・バス、タクシー乗り場、周辺道路、駐車場、駐輪場の改善整備の考えは。
- ・駅舎、周辺道路のバリアフリー化、歩道の整備に対する考えは。

(2) 企業誘致について

- ・企業誘致は、地方自治体、企業、働く人、それぞれにどのようなメリットがあるか。また、本市において、どのような実績が上がっていると捉えているか。
- ・魅力的な企業を誘致するには、どのような方法が考えられるか。
- ・今後重点を置くべき成長産業は何を考えているか。
- ・IT企業誘致に向け、サテライトオフィス事業を考えてはどうか。
- ・企業誘致の現状と課題、今後の方向性は。

## 9 渡辺 竜彦 議員（志政会） 【一問一答】

(1) 坂井市の民生委員・児童委員の、現状と課題は

- ・本市の、民生委員・児童委員の直近3回（平成25年、平成28年、令和元年）の一斉改選時の委員委嘱状況（民生委員の定員数に対する委嘱数の割合）はどのようなになっているのか。
- ・民生委員・児童委員の成り手不足について、市はどのように捉え、認識しているのか。

か。

- ・民生委員・児童委員が、活動しやすくするための支援体制を市はどのように行っていくのか。

## 10 上坂 健司 議員（政和会） 【一括】

### (1) 市民の安全・安心について

- ・子どもの身を守る安全について
  - ①子どもを犯罪から守るには、「地域安全マップづくり」が有効な方法と考えるが、小学校校区単位の取り組み状況はどうか。
  - ②通学路で安全対策が必要な箇所数はどうか。また、毎春、各学校PTAが通学路で定期点検を実施し、危険箇所の把握に努め、報告されているが、現場の危険性を認識しながらも、安全措置が遅れている箇所状況と対策はどうか。
  - ③歩道がない狭い道、車がスピードを出して通過しがちな道、危険な交差点や横断歩道に、新たな路面標示（注意の色のカラー化）やハンプ（凸部）の設置はどうか。
- ・温暖化による「気象危機」について
  - ①災害時の行動計画「マイ・タイムライン」は避難行動の有効な手段であると考えるが、各家庭への普及対策はどうか。
  - ②障がい者等に対する避難対策等が不十分との声がある。ハザードマップで危険な地域において、介護や障がいを要する方に対する個別の避難計画が必要ではないか。
  - ③近くの川などが氾濫した場合、浸水が最大でどれくらいの高さまでせまるのかを知ってもらうため、河川氾濫可能性のある町内に「想定浸水深」を示す表示板の設置はどうか。
  - ④今冬の大雪は自助・共助・公助のすべての面において、除雪体制の脆弱さ、特に公助の限界を思わせた。雪に強い道路づくりを進める一方で、住民同士の共助体制の構築が重要と考える。インフラ整備に合わせて地域ぐるみで助け合う仕組みをどう形成していくのか。

### (2) SDGsから考える食品ロス削減について

- ・食品ロス発生量の現状把握と、今後の食品ロス対策の具体的推進体制および具体策はどうか。
- ・フードドライブ・バンク活動への支援状況と今後の取り組みはどうか。

## 11 佐藤 寛治 議員（政和会） 【一括】

### (1) 5歳児の幼児教育について

- ・小学校教育の接続期における5歳児教育の現状と課題について。
- ・幼保小が連携した学びや生活の基盤づくりについて。
- ・幼児教育推進体制と連携について。
- ・幼児期の学びの特性をどのように考えているか。
- ・一人一人の成長を支える対策をどのように考えているか。

## 12 前田 嘉彦 議員（政和会） 【一括】

### (1) 学校施設など公共施設の排水対策について

- ・学校施設における雨水排水の状況をどのように把握しているか。
- ・合併後に開校した学校はオリフィス枡を設けているが、これまでに貯水池（グラウンドや駐車場）に雨水が貯まるようなことはないか。
- ・合併前に建設された学校で雨水排水が用水路に接続されるなど雨水対応が不十分な学校はないか。
- ・雨水排水計画が不十分な施設は早急な対応が必要と思われるが、どのように対応していくのか。

(2) 小中学校におけるタブレットの活用について

- ・児童生徒の家庭でのインターネット環境の調査結果は。
- ・校務のデジタル化状況と教職員のICT研修状況は。
- ・リテラシーの高い教職員に業務負担が偏ることへの対応が必要と思われるが、その対応は。
- ・災害や感染症、不登校などの際のリモート活用などについては、家庭の通信環境や保護者の意見も伺いながら、子どもが主役の学びの場を確立させていく必要があると思われるが、どれくらいの準備期間が必要と考えているか。
- ・インターネットやスマートフォンが生まれた時から当たり前にある環境で成長していく児童生徒のマナーやルールのあるべき姿をどのように考えているのか。

### 1 3 三宅 小百合 議員（政友会） 【一括】

(1) 新型コロナウイルス感染症に対応した保健室運営について

- ・コロナ禍で保健室の担う役割が増えていないか。
- ・コロナ禍で保健室が利用しにくくなっていないか。
- ・保健室職員の複数配置、保健室支援員が必要ではないか
- ・新たな生活様式に対応した保健室備品・設備は整っているか。
- ・タブレット端末に健康観察アプリの導入はできないか。

(2) 伝統芸能を次世代に継承発展させ、魅力発信を

- ・令和2年、3年は市内各地に伝わる無形民俗文化財の奉納が次々に中止となった。市指定の無形民俗文化財を保存継承する新たな施策は。
- ・市内にある指定されていない無形民俗文化財についての調査結果は。
- ・継承が危ぶまれる郷土芸能を映像で記録保存し、プロモーション動画を作成して観光に活用できないか。
- ・地域の歴史を紡ぐ郷土芸能の灯を消さないために、これまで以上に地域との連携ができないか。
- ・三国節のさらなる魅力発信を。

### 1 4 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団） 【一括】

(1) 学童保育の熱中症対策として、ホールや体育館などにエアコンやクーラーなどの設置を求める

- ・学童保育施設のうち、体を動かして遊ぶ場として、学校の体育館を使っているところは何か所か。また、児童館などのホールにエアコンが設置されていないところは

何か所か。

- ・学童保育の施設で、熱中症対策として子どもたちが遊ぶホールにエアコンの設置を。  
また、体育館には、大型クーラーや冷風機などの設置を。

(2) スケートボードの練習場を整備すること

- ・市内にスケートボードの練習場が必要である。新幹線のガード下や三国競艇の駐車場などを検討し、整備することを求める。

(3) 貧困対策にとどめず、トイレットペーパーのように生理用品が当たり前にある社会に

- ・生理用品の相談はなかったとのことであるが、ニーズ調査での状況は、どうだったか。
- ・必要な時にすぐ使用できるように、小中学校の女子トイレに生理用品の整備を求める。
- ・必要な人（困窮している女性）に生理用品の無料提供と、配布提供においても配慮したやり方で。
- ・災害時用に避難所にも生理用品のストックが必要である。市の現状はどのようになっているか。
- ・避難所となる学校に生理用品を多めに備え、学校のトイレで使いながらローリングストックしていくと、いざというときに助かるのでは。

(4) 「みどりの食料システム戦略」において、化学農薬、化学肥料の低減、地産地消など、すぐに取り組めることから始めるべきでは

- ・化学農薬、化学肥料の低減は、すでに取り組んでいる農業者がいる。今後、どう広めていくのか。
- ・行動変容を促していくために、生産者、消費者の方々との革新的な意見交換会や勉強会、研修会を実施すること。
- ・地産地消を意識した学校給食による、フードマイレージの削減、ないしは二酸化炭素排出量の削減に取り組むこと。

## 15 松本 朗 議員（日本共産党議員団） 【一括】

(1) 並行在来線第三セクター化と春江駅利用促進策

- ・県の利用促進策では、新駅の設置などはあるが、春江駅の改築は、県として位置づけられているか。
- ・春江駅改築に向け、市は、「三セクになれば直ちに改築に取り掛かる」ことになっていると認識しているが、どういう段取りを想定しているか。
- ・「駅を中心としたまちづくり」は重要である。この際、春江駅を魅力ある機能を持たせる駅づくりが必要であると考えるが、いかがか。
- ・春江駅では、エレベーターの設置は当然だが、東側からも改札できる橋上化の検討、周辺住民の利便に供する機能を付加することを検討すべき。例えば、図書館返却ボックスの設置など住民の要求を把握すること。
- ・春江駅周辺整備事業の進捗の現状と今後の計画は。

(2) 公的病院の統廃合と三国病院

- ・厚労省は、「再編統合」計画に基づく対象リストに載っている三国病院について、現在どのような姿勢であるか。
- ・しかし、政府は、この再編計画を断念していない。厚労省の方針は、問題ありと考えないか。市長の所見を求める。
- ・市長は、政府に再編リストを撤回することを求めているのか。

## 16 永井 純一 議員（公明党） 【一括】

### (1) 新型コロナウイルス感染症対策について

- ・長期化するコロナ禍において、事業者から、特に観光地・バス・タクシー・飲食関係の方々や市民から収入減など心配する声が寄せられている。そこで、事業者と市民生活への影響をどのように分析し、今後の見通しを考えて市として行える支援策について伺う。
- ・市民への支援策の一つとして、給食費の補助をしてもらっている。大変ありがたいことである。国の交付金を活用しているが、コロナ禍が長引く中、時限的なことなのか、あるいは、先を見通しての考えを持っているのか、市長の見解を伺う。また、これまで給食費の無償化を訴えているが、あわせて考えを伺う。
- ・新型コロナワクチン接種について、国からの供給量の減少で、市として苦労して接種能力を高めてきたにもかかわらず活用できないことに忸怩たる思いだと察する。しかし、希望者全員に確実に接種を進めなければならない。若者への接種勧奨を含めて今後の見通しと取り組みを伺う。

### (2) 子宮頸がんワクチンの推奨について

- ・子宮頸がんワクチンについて、当市の現在の取り組みと、思いを伺うとともに、国の動向によると思うが、勧奨再開後、キャッチアップ世代への対応が必要である。当市のキャッチアップ世代17歳から23歳の対象人数とキャッチアップ世代への対応を考えておくことが大事だと思う。見解を伺う。

### (3) お悔みコーナー設置について

- ・遺族が悲しみを抱える中での多岐にわたる行政手続きは精神的負担につながる。そこで、ワンストップで対応するお悔みコーナーの設置と、死亡後、何をすればよいか、手続きを分かりやすくお知らせするお悔みガイドブックの作成を要望する。

## 17 田中 哲治 議員（志政会） 【一括】

### (1) 農業行政について

- ・スマート農業について、本年3月の代表質問でも伺ったが、スマート農業に取り組むことにより、後継者や担い手不足、耕作放棄地などの課題を解決させるとの回答だったが、現段階でのスマート農業の進捗状況と課題を問う。
- ・新規就農者の園芸振興取り組みの現状と課題について問う。また、国は2022年度から農業次世代人材投資事業などを改め、負担割合を全額国費から国2分の1、地方に2分の1にするとのことだが、本市の財政にも影響を及ぼすと思うが、本市の考えを問う。
- ・本市の2020年農林業センサスの結果を踏まえ、5年前と比較しての変化を問



う。

- ・令和4年度の転作について、坂井市農業再生協議会からの仮配分時の転作率は36.8%で、本年度の本配分より1%上昇だが、本市の周年作奨励事業費・集団転作事業費の補助金の考え方を問う。

(2) 通学路の安全確保の環境を目指して

- ・児童生徒の通学中の安全対策の考え方について問う。
- ・歩道整備ができない通学路の対策について、本市の考えを問う。
- ・パイプライン整備により不要となる用水路上部の有効活用について、県道春江丸岡線のJR長田踏切西側は道路幅員が狭く交通量も多く、東十郷小学校の指定通学路でもあり、また閉塞予定の幹線用水路が並走している。将来を見据えた事業展開が必要と考え、既に閉塞された用水路も含め、歩道（通学路）としての上部利用の考えを問う。

**18 川端 精治 議員（志政会） 【一問一答】**

(1) アーバンデザインセンター坂井のこれからの事業展開について

- ・アーバンデザインセンター坂井が設立されて3年が経過するが、これまで取り組んできた事業の成果と今後の課題は。
- ・都市計画の観点から設立されたアーバンデザインセンター坂井に坂井市文化財保存活用地域計画策定を委託した経緯は。
- ・これからの運営体制や運営資金を鑑みると、人材および資金面において、自走可能な仕組みづくりが必要であると考えが所見は。
- ・今後、市内全域の課題解決に向けた応用展開が必須である。これからどのように事業展開していくのか。